

真善美

めざす生徒像

思慮深く創造性のある生徒
 心豊かで思いやりのある生徒
 健康で明るく気力のある生徒
 規律を重んじ協力して実践する生徒

令和5年11月2日(木)
 第26号
 (文責：校長 勝部)

2学年では社会体験学習に向けての さまざまな準備を進めています

11月7日(火)から2年生を対象に3日間行われる社会体験学習が、いよいよ迫ってきました。学校では、先週から今週にかけて外部講師をお招きしての事前学習会を開催し、準備を進めているところです。

*ちなみに、先週は一関ケーブルネットワーク局次長兼制作部長の大沼佐樹子さんから言葉の大切さやコミュニケーションの取り方等の指導を受けました。そして、昨日はジョブカフェ一関センター長の金野馨さんから5名の講師の方から社会で必要なマナーにかかわるお話を伺い、その後演習を行いました。

本校に限らず一関市では、すべての中学2年生に社会体験の実施を呼びかけており、今年度も約250事業所の協力のもと、社会体験学習を進めています。(市では単に職場の仕事を体験し理解する職場体験という言葉は使わずに、社会の仕組みやマナー等も含めて世の中を勉強するという意味で社会体験と呼んでいます。)2年生の皆さんには、この取組を通して、人間として一回り成長してくれることを願っています。



一緒に考えよう！—教育に関して、世の中で問題・話題となっていること— その1

1学期から2学期前半にかけて校報「真善美」では、本校の教育目標や学校経営の重点など、今年度目指しているものについて紹介してきました。まだまだ課題はたくさんありますが、今後も生徒と教職員が一体となり目指すべき姿に近づいていきたいと考えております。

さて、今回からは「今教育界ではこんなことが話題になっています」という内容を紹介していきます。目まぐるしい社会の変化や価値観の多様化によって、学校に求められていることは変容してきています。そこで、世の中の動きや問題点を数回にわたって紹介していきますので、保護者の皆様にも一緒に考えていただければと思っております。(できるだけ客観的な立場で紹介していきたいと思います。)

最初のテーマは『学力とは何か?』です。今回は2回シリーズの前半です。

近年、学力についての考え方が大きく変わってきています。かつては、戦後の経済成長のもとで、大学進学率が急速に向上すると並行して受験学力が重要視されるようになりました。そんな中で、知識の蓄積・暗記が主流で、試験に合格するための点数至上主義が広がっていききました。

ところが、21世紀に入って、国連のOECDが世界の国々の15歳児を対象にPISAと呼ばれるテストを実施したところ、日本の子どもは自分で考えて解く力、いわゆる思考力に課題があることが分かりました。その後、文部科学省が毎年行っている小6と中3を対象とした全国学力テストでも教わった範囲のA問題の成績は良いものの、自分で考えなければならないB問題の成績はよろしくないという問題点が明らかになりました。

そんな中、日本の子どもの学力を向上させ、国際社会で競争力を持たせなければならないという機運が高まり、文部科学省は学習内容の基準を定めている学習指導要領の改訂に踏み切り、授業の内容ばかりでなく、授業の方法まで変革することを求めました。現在、各学校には従来の暗記万能・点数至上主義の教育からの脱却が求められています。

* 次回は、現在求められている学力について紹介します。